事例作成日	2020年10月23日	登録日時		更新日時	
質問	①熊谷市出身の神道無念流の剣豪・大川平兵衛と、平兵衛に入門した渋沢栄一との関係について知りたい。 ②他に大川平兵衛と渋沢栄一との関係に触れた図書、論文などがあれば、タイトル、発行元、発行年などを知りたい。				
回答	①当館所蔵資料で、「大川平兵衛」と「渋沢栄一」の関わりの記述のある資料は １．『熊谷人物事典』：日下部朝一郎／編著　国書刊行会　昭和57年（1982年）に「大川平兵衛英勝」と その師「秋山要助」の項目あり ２．『埼玉人物事典』　埼玉県教育委員会／編集　埼玉県　1998年（平成10年）「大川平兵衛」の項目〔・・・渋沢栄一らは、いずれも門弟だあった。〕とあり。「秋山要助」の項目あり ３．『埼玉人物小百科』　埼玉近代史研究会／編　埼玉新聞社　1983年（昭和58年）　近世の剣術家たちの章のうち「神道無念流の使い手」の項で、「秋山要助」の高足「大川平兵衛」、大川平兵衛に教授されたものとして「渋沢宗助」がいる。この宗助の弟子に「渋沢栄一」・尾高一族がいた。との記述あり。 ４．『渋沢栄一』　山口平八／著　埼玉県立文化会館　1955年（昭和30年）その教養と師友－尾高藍香の卓見の項で、「藍香の卓見に此の如き基礎教育は・・・剣道は川越藩の剣道師範大川平兵衛の門人渋沢新三郎につき神道無念琉を修めた。」との記述あり。 ５．『渋沢栄一　日本民主自由経済の先覚者』　山口平八／著　平凡社　1963年（昭和28年）　前出の４と同じ内容の記述あり。 ６．『渋沢栄一自叙伝』　渋沢栄一／述　渋沢翁頌徳会　1938年（昭和13年）筆記：小貫修一郎　一、生立のころ　三、両親の性格と勉學當時の模様　－略－　先生武藝を始む。先生の父晩香は神道無念流の劍法を學ぶ。先生故を以て、劍法を同流大川平兵衛の門人澁澤新三郎に習ふ、家業の暇あれば演習怠らず、風雪寒暑を厭わず、遂に其印可を受くるに至る。　－略－　（この部分は、青淵先生六十年史より） 以上、６点を紹介。３～６の資料の中では「大川平兵衛」と「渋沢栄一」の関係がつながる記述あり。 　また、渋沢栄一の師、「尾高惇忠」について、書かれている『尾高惇忠　富岡製糸場の初代場長』　荻野勝正／著　さきたま出版会　2015（平成27年）　（もっと知りたい埼玉のひと）、『幕末武州の青年群像』岩上進／著　さきたま出版会　1991年（平成３年）では、近い人が「神道無念流」を習う、「練武館」という道場がひらかれた、などとの記述あり。「大川平兵衛」についてのまとめが、川越藩の剣道師範の内容で、『埼玉県人物誌　上巻』　埼玉県立文化会館／編　埼玉県立文化会館　1963年（昭和38年）に記述あり。 ②については、「大川平兵衛」は現在の熊谷市箱田の出身となっているため当館、熊谷市立熊谷図書館にお問合せたと思われるが、大川平兵衛は川越藩の剣術師範になっているため、熊谷市での資料やまとめた論文等は見当たらず。 　当館の資料で確認できたのは、渋沢栄一は、大川平兵衛に直接入門したのではなく、叔父の渋沢宗助の道場に入門した、こと。				
参考資料	『熊谷人物辞典』国書刊行会　昭和57年 『埼玉人物辞典』埼玉県　平成10年 『埼玉人物小百科』　埼玉新聞社　昭和58年 『渋沢栄一』　埼玉県立文化会館　昭和30年 『渋沢栄一　日本民主自由経済の先覚者』　平凡社　昭和38年 『渋沢栄一自叙伝』　渋沢翁顕徳会　昭和13年 『尾高惇忠　富岡製糸場の初代場長』　さきたま出版会　平成3年 『幕末武州の青年群像』　さきたま出版会　平成3年 『埼玉県人物誌　上巻』　埼玉県立文化会館　昭和38年				